

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)	
		12/8-12/15	12/15-12/22
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.034
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.035
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出
		セシウム137	不検出
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.023
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.016
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.046
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.026
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.033

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		12/8-12/15	12/15-12/22	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	
		セシウム137	0.022	
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	
		セシウム137	0.023	

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。
※測定値に大きな変動があった場合は、専門家による解説を掲載し

**● 渡邊正己 京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説 ●**

昨年1年間の大気浮遊じん中の放射性セシウム濃度は、異常値を観測することなく低い値で推移していますので、健康影響について心配はいりません。

原子力発電所の廃炉作業による放射線物質の飛散がないかを察知するため、今回で172回目となる大気浮遊じん放射能測定ですが、今後も続ける予定とされています。

私は、原子力発電所の事故以来、放射線の人体影響の解説セミナーをボランティア活動として開催し、令和3年末で250回に達しました。その経験から「リスクから身を守るためには、個々の人がそのリスクを科学的に理解したうえで、人々が互いに助け合う社会を実現する必要がある。」と感じています。